

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■67■

群馬県の各地に何々と、その土地で継承されている伝統芸能を拝見することが多い。それは祭りやセツトになっていることが多い。例えば、おみこし、獅子舞、祭りばやしなどだ。

昨秋に、伝統芸能の継承の「素晴らしさ」だけでなく「難しさ」を実感した。それは、ある地域の歌舞伎舞台創建200年祭にお邪魔したからだ。  
この地域の歌舞伎舞台は、200年前の1819年に建立。江戸時代から明治時代にかけては盛んに舞台公演が行われていた記録が残っているが、明治後

## 伝統芸能の継承

# 人力で動く舞台感動

期から第2次世界大戦まではわずかな記録しか残っていないらしい。戦後には舞台を消防車の小屋に改造しようという話が浮上した

演ができるわけではなく、大規模な公演は、10年ぶり、20年ぶりというところもあったらしい。この歌舞伎舞台は、多くの先人たちとその思いを受け継ぐ方々の尽力で、継承されてきたのだ。

そして、昨年、創建200年祭が開催され、お邪魔した。2日

の奥も入れ替わるようになってきている。しかも、これらを全て人力で行うのだ。最近、さまざまなものを機械で動かすのが当たり前になっているこの時代に、人力で行う素晴らしさ。そして、この舞台で最も感動したのは、舞台から本場にきれいに榛名山が見えること。

が、地元の青年が郷土史家に相談し、改造を阻止。その後、大学教授らが調査を開始したことで、国の重要有形民俗文化財に指定されたとのこと。

もともと、この舞台は公演時に屋根付きの棧敷席を設置し、終了すれば解体するという作業が発生することもあって、そう簡単に公

間の予定で、朝早くから始まるのだが、棧敷席には人がいっぱい。ここに集まる人がこの日を楽しみにしていたのだ。そして、開演

その実演は見事。舞台が、回ったり、上がり、下がり。尊敬、畏敬、愛着などの対象にしていたのだ。これを強く実感した。



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。